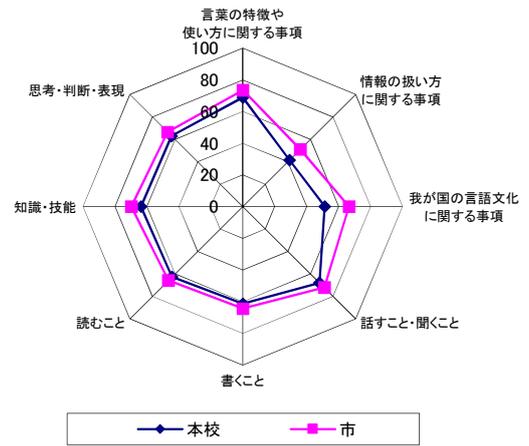


宇都宮市立新田小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使いに関する事項	68.9	73.5	74.4
	情報の扱いに関する事項	41.4	51.0	51.5
	我が国の言語文化に関する事項	51.3	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	68.0	72.3	73.7
	書くこと	61.2	64.3	66.6
観点別	読むこと	62.7	65.8	64.9
	知識・技能	63.7	69.8	70.8
	思考・判断・表現	63.2	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

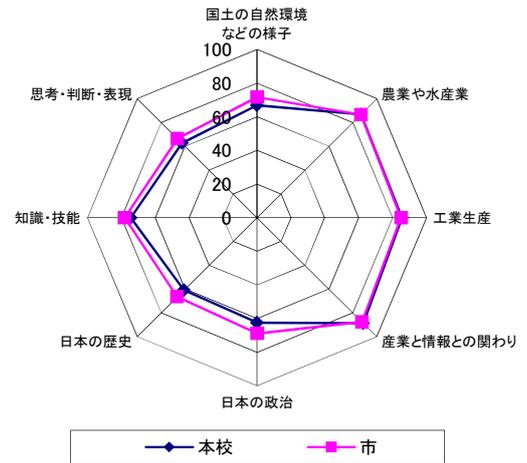
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、市より4.6ポイント下回った。 ○「第6学年に配当されている漢字を正しく読む」問題と「第5学年に配当されている漢字を正しく書く」問題は、市の正答率と同程度であった。 ●「敬語の使い方の問題」の正答率は20%を下回った。 ●「文と文との接続の関係を理解している」の問題では、市の正答率を21ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科以外の教科においても、ノート指導など文章を書く機会を増やす。 ・書き終えた文章を見直す習慣を身に付けるとともに、習った漢字は意識して使うように指導する。 ・前年度の学習内容を、朝の学習での小テストやAIDリル等で復習する。 ・敬語を使って話をするを学校生活全般を通して低学年から意識させ、使い方を繰り返し指導する。
情報の扱いに関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、市より9.6ポイント下回った。 ●「情報と情報の関係について理解し、文章の情報を整理する」問題では市より6.0ポイント下回った。 ●「情報と情報の関係について理解し、目的に応じて文章を簡単に書く」問題では市より13.1ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話の要点を捉え、要約する力を育むために、授業や朝の学習等で、新聞や補助教材から簡単な文章を読み取る活動を取り入れていく。 ・調べ学習において、図書資料やデータを活用してまとめられるよう、目的や意図に応じた情報を抜き出し、簡潔な文章を書くようにする。
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、市より15.2ポイント下回った。 ●「語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語について理解する」問題では、正答率が5割程度だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字や言葉の由来や成り立ちについて触れ、クイズを作成したり答えたりする活動を取り入れることで、言葉の面白さに気付くようにし、興味関心をもって学習できるようにする。
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、市の平均正答率より4.3ポイント下回った。 ○「意図に応じて話の内容を捉えている」問題では、市の正答率と同程度だった。 ○「話の内容を捉える問題」では、市の正答率と同程度であった。 ●「自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉える」問題は市の正答率より12.2ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞く姿勢や態度を日々の学級内において指導を行い、しっかり話を聞くことについて力を入れていく。 ・国語の授業の中で、大事なところに線を引いたり、メモを取りながら話を聞いたりする練習を行い、聞き取り問題に慣れるようにする。 ・話の内容を聞き取ることができるよう、国語の学習だけではなく学級活動や児童会活動等の中でも、児童同士が対面でインタビューをしたり答えたりする活動を取り入れる。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、市より3.1ポイント下回った。 ○「自分の意見とその理由を明確にして書く」問題では、市の正答率を3ポイント上回った。 ●「段落の役割について理解し、二段落構成で文章を書く」問題では、2.7ポイント下回った。 ●「予想される反論とそれに対する意見を書く」問題では3.7ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・段落の役割について意識して文章を読み取ったり、書いたりできるよう繰り返し指導する。 ・反論を予想しながら自分の意見をまとめたり、多様な考えをもてるような活動を取り入れたりするなど、国語科をはじめとして他教科においても継続的に指導していく。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、市より3.1ポイント下回った。 ●「人物像を具体的に想像する」問題では、市の正答率と同程度であった。 ●「文章全体の構成を捉えて、要旨を把握している」問題では、6.4ポイント下回った。 ●「文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げる」問題では、4.1ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・段落間の関係について、図にして表したり、読み取りで使うキーワード(事実、考え、疑問、問いと答えなど)や、接続詞に注目したりして、内容を読む指導をする。 ・登場人物の心情について想像しながら音読したり、図に表しながら読み進めたりするなど、指導方法の工夫を図る。 ・自分の好きな場面や登場人物について、根拠を明確にしながらか友達と伝え合うことで、様々な意見に触れながら学習できるようにする。

宇都宮市立新田小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	66.8	71.6	69.6
	農業や水産業	86.8	86.7	83.7
	工業生産	85.5	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	88.8	87.7	77.4
	日本の政治	62.5	68.9	71.7
	日本の歴史	61.0	66.7	66.3
観点別	知識・技能	74.5	78.0	76.7
	思考・判断・表現	62.7	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

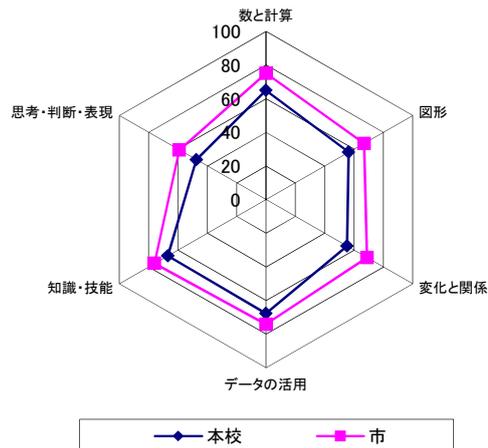
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、市より4.8ポイント下回っている。 ●「日本の周辺の海洋名」に関する問題については、市の平均より11ポイント下回っている。 ●「国内の林業が抱える問題」に関する問題については、市の平均より14.1ポイント下回っている。 ●「日本の主な地形の名称」に関する問題については、市の平均より5.6ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●普段の授業において、地図帳をすぐ手の届く場所に準備しておき、積極的に活用することができる環境をつくる。 ●ニュースや新聞記事などから話題を提示し、興味関心を高め、理解を深めていく。 ●デジタル地図帳を活用し、クイズ形式を取り入れながら問題を解いたり、調べたところに付箋を貼ったりするなどの工夫をする。
農業や水産業	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、市とほぼ同程度であった。 ●「米の生産の工程」に関する問題については、市の平均より1.3ポイント下回っている。 ●「米の生産が盛んな地域」に関する問題については、市の平均より3.7ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「JA農業とくらしの工夫」の資料を授業でも活用し、グラフや資料の読み取り方を改めて指導していく。 ●児童の興味関心を高めるために、スーパーマーケットにおける産地の話題を取り上げるなど、資料の提示の仕方を工夫し、理解を深める。
工業生産	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、市より0.5ポイント上回っている。 ○「日本の工業の特色」に関する問題については、市の平均より1.6ポイント上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●工場見学などを積極的に実施し、児童の興味関心を高めていく。 ●身の回りの工業製品を分類する活動を取り入れながら、工業製品に関する知識・理解を深めていく。
産業と情報との関わり	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、市より1.1ポイント上回っている。 ○「情報の発信と受信」に関する問題については、市の平均より1.2ポイント上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●情報に関連する身近な出来事と結び付けたり、体験的な活動を取り入れたりして、課題意識や判断力を身に付けられるようにする。 ●情報に関する教科横断的な取り組みを、学級活動や道徳の授業などで取り入れていく。
日本の政治	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、市より6.4ポイント下回っている。 ●「天皇の地位」に関する問題については、市の平均より9.1ポイント下回っている。 ●「内閣の働き」に関する問題については、市の平均より6.9ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●天皇の地位や権限について、日常生活に関わる具体例を挙げて説明しながら、知識の定着を図る。 ●政治の仕組みについて学んだことを自分なりにノートにまとめたり、問題を復習したりすることで、政治に対してもっと関心をもてるようにする。
日本の歴史	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、市より5.7ポイント下回っている。 ○「書院造の部屋の特徴」に関する問題については、市の平均より5.1ポイント上回っている。 ●「源平の戦い」に関する問題については、市の平均より16.2ポイント下回っている。 ●「鉄砲の伝来」に関する問題については、市の平均より14ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●映像資料や資料集を使い、児童の興味関心を高める。 ●歴史上の人物や出来事を取り扱う際に、その時代の前後の時間軸を捉えさせることで、つながりを意識させるようにする。 ●同じ時代に起こった出来事を関連付けながら、時代や単元ごとのキーワードを入れ、自分の言葉で学習のまとめを行う。

宇都宮市立新田小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	65.0	75.1	75.8
	図形	56.3	66.8	68.3
	変化と関係	55.3	68.8	65.0
	データの活用	67.7	74.1	63.6
観点別	知識・技能	66.9	76.1	75.8
	思考・判断・表現	47.5	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

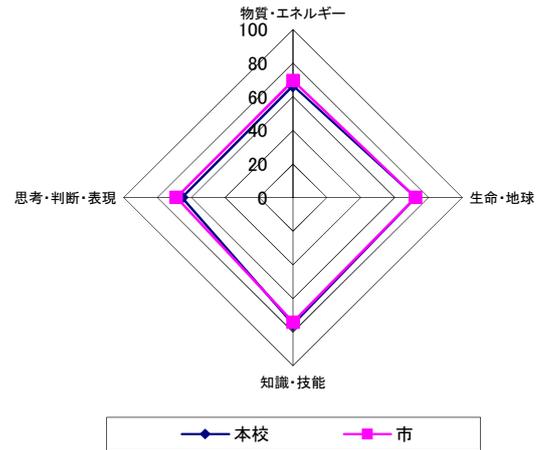
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、市より10.1ポイント下回った。 ○「分数×分数(約分あり)の計算」についての設問では、市の正答率を上回った。 ●「図を見て、小数倍の文章問題(純小数倍, 比較量を求める)を解くために乗法の立式をする」設問では、市の正答率を大きく下回った。 ●「真分数+真分数=仮分数(帯分数)で、片方の分母にそろえる通分をする計算」についての設問では、市の正答率を大きく下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の導入時や朝学習の時間を利用して、計算問題を繰り返し解き、今後も基本的な計算力の向上を図る。 純小数倍の時には、基準量よりも値が小さくなるということを図と関連付けながら指導していく。 分数の加法と減法では、分母をそろえてから計算をしなければならないことを、図を使って丁寧に説明する。また、約分忘れを減らすために、繰り返し類題を解かせる。
図形	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、市より10.5ポイント下回った。 ○「直径が与えられた円の面積を求める式」についての設問では、正答率が80ポイントを上回った。 ●「角柱の体積を求める」設問では、市の正答率を16.5ポイント下回った。 ●「三角形の内角の和が180°であることを理解し、2つの角が与えられた三角形の1つの外角を求める」設問では、市の正答率を17.4ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 三角形の外角の和を求める問題は、基礎をしっかりと再確認して、すでに分かっている数値や不足している数値を書きこむ等、情報を整理しながら考えるよう繰り返し指導する。 面積や体積を求めるにあたって、公式をしっかりと理解させ、本当に必要な部分の長さを自ら判断し、求積できるように指導していく。 対称な図形を学習する際には、具体物を活用し、実際に操作させることで知識の定着を図る。
変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、市より13.5ポイント下回った。 ●「速さと道のりから、時間を求める」設問では、市の正答率を22.8ポイント下回った。 ●「基準量と比較量から、割合を求める」設問では、市の正答率を13ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 混み具合の意味や求め方について丁寧に扱い、基礎的な文章問題を繰り返し解かせる。 「単位量あたりの大きさ」では、「基準量」や「比較量」の意味について、言葉や図で分かりやすく説明する。 速さは「単位時間あたりに進む道のり」と同じであることをしっかりとおさえ、大きな数で捉えにくいときには、簡単な数に置き換えて考えることができるようにする。
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> どの問題においても市の正答率よりも下回っており、全体の平均は、市平均より6.4ポイント下回った。 ○「最頻値を求める」設問と「ドットプロットのデータを度数分布表に表す」設問では、いずれも80%を上回った。 ●「値に0があり、答えが小数になる分離量の平均を求める」設問では、市の正答率を12ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 平均を求める際に、合計を個数で割らずに、解を導き出している児童が15.8%見られたことから、平均がもつ意味をしっかりと指導していく。 様々なパターンのドットプロットや度数分布表から、代表値を用いて分布する課題を取り扱い、代表値の求め方やそれぞれの代表値のよさを理解できるようにする。 それぞれのグラフの意味や活用の仕方を日常生活に即した学習を通して、読み取れるようにしていく。

宇都宮市立新田小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	66.6	69.5	65.2
	生命・地球	72.4	72.3	70.1
観点別	知識・技能	75.2	74.0	70.7
	思考・判断・表現	65.5	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>・平均正答率は、市より2.9ポイント下回った。</p> <p>○酸素のものを燃やすはたらきを問う問題では、市の平均より10.3ポイント高く、酸素の持つ特性を正しく理解できていた。</p> <p>○「塩酸の鉄やアルミニウムを溶かす性質」の設問では、市の平均よりも14.6ポイント高い。塩酸の特性や授業の中で行った実験の内容が理解できていた。</p> <p>○グラフから食塩とミョウバンの水へのとけ方について考える設問では、市よりも7.5ポイント高く、グラフの読み方やその変化から考えられることを理解できていた。</p> <p>●「電流のはたらき」の設問では、3問とも市の正答率を大きく下回った。</p>	<p>・考えや結果を表すときに、言葉での表現だけでなく数値や図、グラフが使えるよう指導していく。</p> <p>・実験の前に予想・仮説を立てさせ、結果と比較することでより深い学びにつながるよう指導する。</p> <p>・事物・現象に対するポイントとなる言葉を「理科ワード」として取扱い、定着できるように指導する。</p> <p>・「電流のはたらき」について、既習内容を振り返り、学習内容の定着を図る。</p>
生命・地球	<p>・平均正答率は、市とほぼ同じであった。</p> <p>○「和歌のよまれた時の月の形を推測する」問題では、市の平均より10.7ポイント高い結果となった。太陽の位置と月の見え方の関係が理解できていた。</p> <p>○「植物のつくりとはたらき」では、予想が正しかった場合に得られる結果を推察する設問は、市よりも8.4ポイント上回った。実験の手順や内容を理解して、求められる結果が予想できるようになった。</p> <p>●「流れる水の働きの仮説の正しさ」を問う設問では、市の平均より11.9ポイント下回った。</p> <p>●「植物のつくりとはたらき」での、大根の保存と葉の関係について記述する設問では、正答率が48.7%という低い結果が出た。</p>	<p>・発展的な内容や生活に関わる内容を扱うことで、児童の関心を高め、知識の定着を図られるよう指導する。</p> <p>・実験や観察の目的を明示し、見る視点を明確にした授業を展開する。</p> <p>・単元の初めに、既習事項を振り返り、基礎的な知識や用語を確認する。</p> <p>・単元の中で繰り返し出てくる言葉に着目して考察することを継続して指導する。</p>